

於
1987

合。今月今日奸賊為久主役を殊戮し。亡父を冥ニ奉向する。
當の敵殺輕も。達うゞぎて復讐の工とするべ。其の冥速ニ納受
く。天堂ニ生じまくる所と願う。南無阿弥陀仏と唱うべ。
怪しき者思ふ。女の声一々りうるゝも小念佛と。その音耳の回り
ふあり。美高より研ぐ。左右を傍と見えず。曩は入間川。
忠義の為より命を墮せし。宇野小太郎羽氏と。その妻桂子
君。義高よりこれを怪しむ。悲哀悼み堪びし。汝才ハ若
草の絛ひゆゑどもぞうとも。その根のみども。忠節此より
をりく。西方極樂のぞ熱池うる。並頭の蓮花臺より人づく
とむひぬふ。すな三熱の苦惱を熏。妄執の雲より誘引まく。
さくふ出づるよ。汝ホマリノモニ。唐糸が無志も。志を舒ふ

及づ。又發覺く。擒とまり。死をうち歎き。今幻よりつま
ねせえあらざるや。あとと向ふ。氏族擧頭騒ぐ。潜伏と落波
し。且しきやうとす。賢察のぶく。臣木が横死。原木たるの為う。
危く涅槃邪の呵責を受ど。今倅よ切利天宮よりて六道能化
の教主大悲深極地修するの濟度利益よも。是を貌姑峯よがよ
り。加持羅伽山の靜をもりひ。神を塞。河原よ在て。恒河沙
可度の群集を伴へ。されば六環金湯の響音を笑ふ。松吹風も
羨す。一顆の摩尼の光を受て。行者の方も脅ふ。只臣等が
忠魂也。君の心懲りてんよりはかゝ人の。皆を地蔵大井
の門接化導すふ。よ。又偶々見えある。又はれ。あう教よ
唐経も。その心も雄く。その謀猷もあざれど。教ねの

時運高大ゆく。なり成らざるをうふせん。ぶ君目今。石田太郎主従を駆り
空手。複讐の本意遂む。角争ねども打滅。又足利仲朝臣の志と
往く。又人。究め。速よろひとす。却て彼人よ辱す。もと
も。今こそ是ヤ。山林よ隠居。先君の苦楚を吊ひ。後世のいと
き。そあはまほ。と夫婦いとく。縫う。義高はくぐとす。くびを
うち掉。汝おがり。而して。あるふ似。れど。勝敗の時運よめ。け
やう。その成らざるをか。そく。仇を替ひの志を將こ。子す
かの。道。田横。孤高。又。復讐の。と。勇士の。ふ。か。
か。そあべた。又。おがじ。死。復讐の。と。勇士の。ふ。か。
す。おがじ。汝おぬ。び。諫言。う。そ。と。う。す。そ。と。う。そ。
す。おがじ。汝おぬ。と。汝の。ひ。み。と。う。そ。宣ハ。し。そ。も



理うれど爲えうて憎もす。憎がうたの仇うれ。簞倉殿。半
家の悪逆を討く。宸襟を休め。勅令を稟き。先君を追討
空うれりの父。これをえ仇とう。獨りそんと計りあひ。反逆の罪
脱身がごくん。加旗頼朝卿。武運めぐらしく。あらとすと。いよ。ふや
その例をせうご。日本國の總追補使をつとへつる。宇宙と掌握し。
みこみあり。ふほせざるはなし。伯夷叔齊が清潔ようす。餓て首
陽の山。死をとも。彼を譽へ天。逆ふ者トドシ。りすへふも。天
小順へ生。天。逆へば亡とり。努めひきすうき。といひせも
めへど。美高忽地。氣變り。すそれ行氏汝頻。おおの時。運を
稱。と。平家富士源の水。す。驚をさ。不覺の機。を。う。一も。
寔盛が。の。う。を。う。起く。自方の英氣。折。う。れ。え。不。言の
つ。天。う。ほ。の。と。明。う。う。山の。挾。う。く。う。う。よ。う。

諫言。す。も。忌。と。焦燥。と。刃。を。起。砂。を。蹴。舊の。山。頭。ユ
砌。と。も。を。行。氏。棧橋。竹。左。右。の。袂。す。携。是。う。身。速。人。に。う
あ。が。若。も。怒。と。袖。リ。も。ひ。刀。を。抜。き。下。と。砍。ま。が。今。や。く。め。い。う
夫婦。が。形。煙。の。下。滅。う。せ。う。湖。水。の。う。ふ。鶯。鶯。の。と。も。音。遙。よ。え
う。天。う。ほ。の。と。明。う。う。山。の。挾。う。く。う。う。よ。う。

第十三套

正忠孤忠幼主よ仕人

陣戸心烈乳汗を賣

竹川因幡。み。正忠。ひ。ひ。ぬ。壽永二年。の。秋。主。君。猫。同。光。隆。や。木。曾。秀。仲
よ。面。比。ち。ト。且。賛。す。塙。と。ぞ。自。殺。と。ひ。そ。の。家。忽。地。よ。滅。亡。せ。う
ふ。光。隆。の。舍。才。新。太。郎。光。实。へ。木。曾。を。祖。そんと。う。際。を。階。出。家
隸。ホ。う。あ。う。と。う。離。散。と。う。ど。も。正。忠。と。う。托。孤。の。精。忠。を

竭とよその妻津戸又夫又芳らぬのされば夫婦久しく光隆の後室八重垣の方と幼君鈴推丸のあん供しく嵯峨の片山にとうふ。大堰のほとりふまたとよもとすやうがる草舎を造りて、あそ一室の居をとめとく。艱苦の中より三年あそひを築く。貯禄も既に竭り、加補正忠より母ありそ。母の齡七十又九。目も盲て耳も聰らざり居て自在す。千江松う色りて、わづかに被りて、手足すりて、あく。ようび便りをすのとく。夫婦が忠孝焉たまえ。よし志を移とく。君よ事親ようて。子の貪りと憂とせど。あつて八重垣の方へ年來積るりのるひよ。ひとひをす。身も細。先實をぬりひく。従く一下りも信す。一いはきよつけ彼よつけく。かほをすものやす。牡鹿崎く嵯峨野の松と蘿トけん。

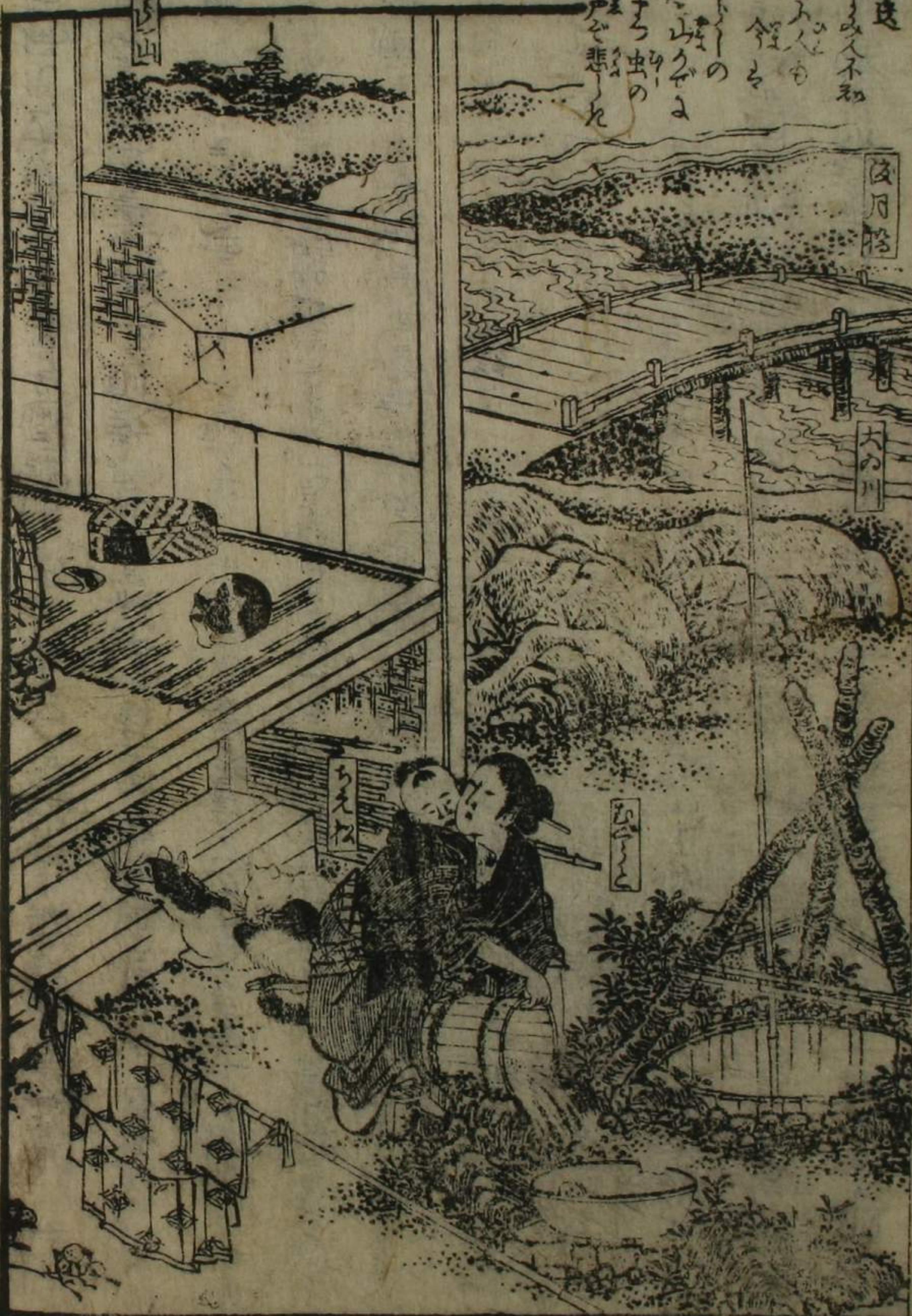
うら悲しき身もどうよして長を病ひて臥りゆひが。病日よりて。首のあぐゑすものとじ。醫師も眉根をそりて。あく果てえりをがつす。と密達ゆ。正忠津戸へ。かく安たかく。敷もありぬ夫婦が衣服太刀髪の飾りと。調度よりて。かく活却りて葉を渾ひ。真珠懸膳人參などと價貴を厭ひ。療治等困りだらひせが。頃より十月の下旬されど。且岡の風ひ寒れど。物もえ售竭してせんそづ。只ころう。神仏の冥助を禱る外ゆべからとく。夫婦送代よ。清涼寺の迎迦堂。清水寺の起世音。よ宗祐し。八重垣の方の疾病。卒愈す。と。と禱る外。化念す。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。四才ふくあらそんが。ひき乳房を放となりぬから。母へりえ。病體。近曾乳付とり。のれ。露をすり出さるよ。す。母縁りて懷を放と

あらざ。乞ふ病人の猶うへもばまわく。津戸へまかづ。お稚
をうひ慰ひ。賺へうらり撲とうら。外面へまうりゆ。びくともうう。
うつ母君の母とうべ放きゆうがれども。うめじゆもく。あひが乳け
を進へせんとまろみ。生めのうう。ほのほとうへもとせう。おへざりう。
正忠も津戸も。み形勢よせんとがづく。がくせがくじらう。津戸が
乳をりく。養育あるべしよ。母君の手へうへ育ゆう。慰うとくう
えん。八重垣の方お宣へせし。今よ至ううへ化とすうて。俄頃より
もうち。ありびこ。り乳もうれかく。推君えへ病ゆうがくひゆ。
りふ悲へうう。どろびりうへり。母草。ほへもあへやく。済うる。正忠が
一子千人松も。徳稚と同庚。うぶ母の懷をとうれど。貧乏を家よ
主従の差別もうく。位ひそれど。ううどふかたのとせよ。登り終日。

便へ通霄。津戸が信す。小者病へ進へ。ちを。八重垣の方へまく。推辞
う。ふ病焉へまうへのうもあへ。果へうを。みゆ。信く
あへ。めせすれまん却へうる者。且正忠が母力自へ。目も盲立。居も自
在。うぬを。これ。友等。困り。んとくうふ。只。うがひへうら。捨て
あり。と宣へする。か。自へか。ま正へた。妬うれば。が。れと。物の用。み
たぬ。の。愁。み長生へ。子。み。嫁。み。一層。の。難。苦。と。す。する。うふ。
津戸。み。抱。せ。う。を。厭。ひ。を。う。夫婦。の。り。み。ゆ。人の。子。う。
親。み。不孝。う。じ。と。う。へ。も。う。み。う。れ。ど。も。譜代。重恩。の。主。君。か。く。襄
ち。く。う。か。ひ。く。危窮。存亡。の。秋。み。當。ま。く。の。親。を。も。首。と。ぐ。く。び。く
へ。老。を。ご。ち。く。餘。命。り。ね。も。あ。う。ぬ。え。う。の。只。後室。の。ひ。ん。病。焉。ス。稚
君。の。あ。ゆ。へ。り。ふ。あ。う。と。う。と。う。ひ。や。れ。ば。夫婦。か。み。の。中。う。

推量らしき。一日もとや徃生せり。かくてもう母を勧え
とく。徐々に殊よりこなば。速々縊死。汝もとせんりのを。と教訓。
正忠薄アとれを笑ふ。うとうとが母の友をもく。主君を等閑よりも
がた。かくもふるひゆく。作ともほの隨ふくあるべ。かうとべーも
すとねるふく。正忠等を不孝の子とよりうらひそ。と應へくぞ。
刀と自ら詮びく。よめく夫婦が手筋せんとく。撥粉アマ曲突よ
ア柴折えく。飯を炊せぬを剪ト。或も孫の千鶴松が守るどして傷
癪をうのまうれどそれをどうやうが。えのきよ情うんくと明白う
ひひぐく。せとく時く形くや。おとくの親と孝養を。尽くすも
尽くされぬ。貪りを家ふる人あらぬ。物心ひのきもぬく。と夫婦面
をあうつ嘆息し。うろご泣く日を送る。ハ重垣の方八日よ

ひ日又病あり。うきて。笑ひうきく見えぬ。この二三日よりせのの價も
竭ふけれど。正忠夫婦ハ。うきくおひ屈ア。偕よろづり。うち残へ
よ。津戸がひく。人の壽命又限ケアリ。陽菜をも進さざ。
見殺へ。あくまんの遺恨。今立ツハツのころで
せば。花街又オを賣る。些の金を調へがむ。捨る操のそれうち。
うう。浪うそ悲一々。下に心案へがはざと。と擦ニテ
向ふられ。正忠笑ふ。頭を傾け。健男のりと猛たも。智あれりの
才学。又。及びがとて。只今。それから。と擦ニテ
ふせび。これへうすれか。うれ主君の耻。うれ。からうれいひも出づ。ま
ま。夫婦が孤忠。神も佛も憐く。うれ。あらん。欲。惑
ぬ。す。今。けんへ瑠璃樹。とぞひ遍り。日未み。仰げき。



首を擡ぐ。すよ篠戸千江松がりくもうるよ。とくゆたき乳を飲せ
う。とあぐく宣ふようちもむをぐくまうりあた。すくこが子せせ
えんひなあめ。縁よ引揚つ。膝よ撥參く乳房を術されば。小春の唇うへ入きて。
弥生のこうとうも暖ふれば。千江松も乳を吸ふ。目睡つ。それば
由緒ある武士の内室。清涼寺諸どとあびて。行轎の戸を細ちよ
け。後者駿ねく。渡月橋をねりゆく。みど篠戸遙よ目送りて。せよ
ゆる人の物音へ。かくこそありえん。と主八重垣のさん方も。昔のままよ
在さぶ。かくかで空トリの祇堂ゆきと人のよめ。榮枯も春の花ようも。
まゆもうす。とよどりこも。亦末一もくせらひ生。おしもあれ鬼口婆
忙しく走り来く。篠戸よりゆき。お乳の人よ出ゆくはすうすう。まゆ
主人のよみゆえゆひよ。幸ううとの方のありゆく。頬ノモ

養人と宣ふ。とく東あく權勢あく歟うが。近曾京上うへゆひ
つよ。とく曉ひ。篠戸へとく取りゆく。とく東へれく下らへとく。とく
初人とくとく。目今伴ひはくべ。とり。篠戸とれをゆく。とく千江松
を障子の内よ抱き入る。そと枕をさ。舊の縁頬よ出く。鬼口
婆くよ。おひ。給ゆりのゆく。豫そおひ。室くわく。時すく。の嫌ひなど。
折ふ。夫を東山へゆく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
夫の暇をまく。とく。余り。仕り。うん。とり。を婆く。やもめ。いなよ。す
やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。やく。
夫人。とく。うち。乳母を養人と宣ふ。とく。轄の内。とく。乳母を
えそ。とく。とく。乳の間も廣く。ぬよ。年紀もう。購得く。伴ひ。外
とく。とく。家臣。付ぐ。どひ。仰せ。とく。が。案内。とく。進く。とく。とく。

おれがちを一も猶豫^{ゆうよ}へざ。直^{ただ}み詮食^{さんく}へゆき。外
面^{おもて}をえりへりて、手^て招^{まね}くふ。忽地行裝^{こうじゆう}へくる武士。年^{とし}齡^{りやう}四十をう
き。後者二人ねぐらそも入り。簾戸^{れんと}よりすき。故ゆうそ。今主君
の名^なをあらげど。鬼^きとやうんがいぢく。此度^{こじゆ}簾食^{れんしょく}。下アヨリ^{アヨリ}と火急^{ひき}のうそ。いそとあらば。料價^{りょうば}十金^{じゅうきん}と定め
き。金^{きん}残^{のこ}り遍^{まん}とぞ。行^ゆとも忙^{いそ}しき折^{たたき}。千形^{せんぎやう}
ほ。日^ひよ。人^{ひと}をりく。覺^{おぼ}らうとも。そハ遙^{とほ}まよあらざ。さくらん^{さくらん}。
とぞえちし。軀^{から}懷中^{くわいちゆう}。小判^{こばん}十両^{じゅうりょう}をと。生^{なま}く。銀纏^{ぎんじん}もぞくべ
く。霜^{しゆう}よほ^{よほ}。菊^{きく}の花^{はな}の一輪^{いつりん}。又^{また}失^{うしな}じ。簾戸^{れんと}にれをとて。やく
やく。おのづかう。夫^{おとこ}も見えぬ^{うけぬ}。常^{つね}よろうてみゆの遙^{とほ}
よ。さればとぞ。お詫^{あや}食^し。そのひが^{ひが}。室^{むろ}より十枚^{じゅうまい}の金

八重垣^{やえがき}の方の齡^ねを延^のる。仙境^{せんじゆ}の菊花^{きく}水^{みず}不^ふ花^{はな}の神^{かみ}葉^はうのを夫^{おとこ}
婦^{めおと}親子^{おやこ}の愛惜^{あいせき}も忠義^{ちゆうぎ}もすこひゆある。とぞれどくろは鬼^き
もく。彼^{かれ}入^はゆく。目^め今^{いま}もすくせ^せ。夫^{おとこ}も家^{いえ}よけ^{よけ}など
かく。そぞく。才^{才能}をあらうふ。推^{すい}辞^じけるがくもあらば。家^{いえ}を
かく。病人^{ひびと}あり。そのサホの價^ひもく。かく才^{才能}を賣^うける。それと悲^{かな}
あをよ。姑^{おやぢ}ひとり老體^{ろうたい}。子^この身^み縛^{しば}く。縁由^{えんゆ}をやせん^{せん}
も便^{べん}す。今^{いま}もあれ夫^{おとこ}が帰^かり。かくとあるかせ^せ。もくよ
筆^ひ遺^{おと}。手^て間^まへ。片^{かた}へゆく。とりふ。彼^{かれ}人^{ひと}怠^{だら}そ。それ程^{ほど}のよき
竹^{たけ}厭^{うら}ん。用意^{ようび}よ。とゆる。それと。簾戸^{れんと}へ忙^{いそ}しく。被^は金^{きん}をとて。障^{あざ}
子^この内^{うち}よき^い入り。かくとすよ。揖流^{いざな}と。硯^すの墨^すも。嬪^{ひめ}夫^{おとこ}も。うと見^み
くうち歎^{あき}き。涙^{なみだ}と紙屋^{しじや}の。かひみをすり代^{かわ}深^{ふか}く。筆^ひよ



まろ暇。うひ姑の子。みどり子の子。書遺。とくへ悲しきの。塞る胸と共。又
裂。小刀。すうとぬ筆の鞘。じゆ。あらね稚児の寝具。もとれが見えざめ
う。ところべ断不剪うる。書筒。卷こゆく。封皮。今朝食残と自
弱も。今この糊。とくさんとく。つひうけ。封皮。今朝食残と自
かく。出居の柱。あづまても。直。神である。千江松が腰よ長。と
守袋をそと。件の金を押入。只一重。す。附役。おぐみ
つる恩愛のほよえり。ね生別。屏風。みさう。観。八重垣の方へ
於稚丸を抱。寐。とやく。とやく。睡。とゆひ。一面。新の。とあく。すくみ
を。とよび。の。候。ひ。も。う。寝。き。ど。の。ほ。ど。袖。を。幽。締。と。屏。風。に
と。す。り。退。き。窓。の。横。日。よ。脊。を。曝。ら。と。姑。の。母。と。う。近。く。ゆ。き。
その耳。よ。口。を。と。お。し。母。い。よ。竹。タケ。の。名。と。ぞ。正忠。ど。の。よ。あ。ん

まく。人の。背。身。を。ひ。る。よ。ゆ。り。の。運。く。も。か。り。と。う。山。田。村。乃
不。う。う。ま。ぐ。り。の。を。う。帰。く。ゆ。ふ。を。見。ば。げ。そ。ぐ。く。伴。ひ。來。け。り。ま。ん。
家。の。内。う。う。う。そ。を。緩。し。断。離。す。席。离。の。縁。よ。足。を。か。う。す。れ。そ。
地。炕。へ。移。び。入。ま。る。八。重。垣。の。方。ち。稚。君。も。と。く。睡。く。く。せ。ま。る。千。江。松。
ま。く。假。寐。と。く。け。く。う。れ。び。の。間。す。と。そ。ど。る。ひ。け。り。と。ひ。あ。と。そ。れ。ば。か。自
立。改。く。ア。マ。タ。ハ。お。ひ。る。ア。タ。ス。正。忠。よ。あ。ん。と。く。人。の。手。ま。せ。く。と。う。ろ
り。と。ま。た。お。か。あ。と。ね。放。め。ア。子。ハ。付。し。と。う。ぞ。朝。夕。の。薪。炊。へ。ま。う。こ
あ。う。の。者。痛。孫。が。ぬ。抱。き。う。使。わ。嫁。を。う。す。く。ぬ。手。技。熟。そ。お。り。
娘。と。セ。う。ぬ。お。操。が。痛。一。さ。う。こ。え。う。と。ど。ふ。る。と。う。と。と。と。盲。目。の。え。を
別。と。く。も。う。ざ。れ。ば。い。と。苦。一。き。藻。戸。が。あ。く。く。り。と。ぬ。辞。別。只。健
き。く。う。う。と。夫。の。孝。娘。う。け。り。と。ふ。じ。う。う。も。物。を。ひ。を。ば。あ。う。す。と。

そりひこうく。欺をすらと不孝の罪免へゆ。と今と掌よ神よりぬ方の餘
念す。刀自が凡縁殊数よりも嫁へ侯の玉をすと。かくも萍戸へ外画へ
立て。彼武士よ射ひ。さうそ祐てびゆひきめ。秀タクといふは彼入へ。往復の
轍を折戸の内へ打入さ。是へと指揮よ萍戸も。憚あれど見苦しだ。是
まよかせと宣ふを。准辞すとまへては許しゆ。とひきけく。乗積る後
走り。もや檻先と下部が息杖。胖郷音よ千江松へ。忽也又目をそむ。准どろ
あも不審されば。慌忙走り来つ。母ひりづせへゆたゆふ。どうおを付ひゆへ。と
ひもすくとね古ふく。まうりびと母親の袖よ撫つて。とほ鬼に波かく
さうまく。かくもあくまく。今ある所をく捨みて來よう。是進させ
よ大人へ。田守へゆと賺へくら。袂もと落栗と。さうすまは受く。
莞尔と咲る子の顔を。見る萍戸へ笑栗の毛毬かく。狗を刺すと。涙

見せと引かうと。廉もかどのもが啼。東へとゆ。首途とも。もうせ。送る
稚児を。迹よのどんの雪とえ。若へむれ嵐山よ。ちひめん。さう祖山の四鳥
の別がやく。翅ふそれと。打とゆく。後の歎たひのゆゑ。推量うれて哀心
詒ふ云。石田為え奸智を廻し。发仲を欺をと。臣附せまう。以來。その
恩賴朝よ傍もとと遠へ。あく死神とこれを殺を。その謀甚様。とくに
カく。惡報遂よ報。亦云。高と欺をと。貌姑峯山中よ元と授う。
えつがく。他者。二つの湖水を。人公の清獨と因果の淺深を示す。
頗奇。亦云。正忠萍戸が誠忠へ。更ふ愚か。辞をすこべ。懲
惡。勸善の素意顯然。且鈴稚半熟く。萍戸が乳を飲む。倘
あく。正忠の妻を。傍りんや。

